

■マルティナ vs 誘う踊り姦 のち ハッスル呪い姦

世界を救うため各地を旅して修業を続けている女闘士マルティナ。彼女は今、草原の中でモンスターの群れと戦っていた。

「はぁっ！」

鍛え上げた豪脚が一閃し、魔物の一体を跳ね飛ばす。その一撃の威力に耐え切れず、魔物は地面に転がりながらどす黒い霧となって消滅する。

マルティナの実力は圧倒的で、特に蹴撃は多少強力な個体であろうとも一撃で倒せるだけの威力を発揮する。しかし最近は魔物が活性化しており、その数を増していた。今回も倒してはまた次の群れがやってきて、合計すれば三十以上の魔物と連戦になっていた。

「ふう……流石に、疲れてきたわね……！」

額に汗を流して疲労を感じ、それでも女闘士は笑みを浮かべている。

平和や安全を考えれば、魔物か少ないに越したことはないが……修業相手として見た場合、一体一体と戦っているのでは効率が悪く、手応えも掴めない。修業中の身であるマルティナにとって、むしろこのように連戦できた方が鍛錬となり都合がいいのだ。

（あと、三体……二体……！ もう終わっちゃうかしら……？）

一体をまた蹴り飛ばし、残るは二体。疲労した今なら実力伯仲の好勝負ができるのではないかと闘士らしい期待を寄せながら、残る二体の一つ、パペットマンを蹴り上げる。

「さぁ、ラス……あぁっ?!」

これも文字通り一蹴し、最後の一体である魔物……屈強な大男のような外見の異形・ごろつきに目掛け向かおうとした時。

マルティナは突如、身体を自由を奪われてしまう。

（これ、誘う踊り……？ あのパペットマン、ギリギリで発動していたというの……？）

誘う踊り……パペットマンなどが使う、かかった相手はつい身体が踊ってしまう呪いの技だ。マルティナはこの呪いが使われる前に倒したと思っていたが……どうやら蹴り飛ばす一瞬前に発動に成功していたようだ。

（しまった……一瞬、油断した……って、なによ、この動きっ?!）

連戦での疲労や、修業のためにもどうせなら苦戦した方がいい……そんな気持ちがあったがために、マルティナの動きに僅かな乱れが生じていた。そのためキレが鈍り、本来ならかかるはずのない技をギリギリで受けてしまったのだ。

しかも活性化の影響か、踊りの動作がいつもと異なる。厭らしく腰をくねくね左右に振って歩き……魔物の一体が残した棒切れを持つと、それを地面に刺して、その棒を使って踊りを展開する。

棒に身体を押し付け、次は胸を寄せ、脚を絡めて妖しく挟む。更に棒に背でもたれかかり、両手で棒を掴んだまま膝を広げる。蟹股……というよりは蹲踞の姿勢となり、腰をクイックイッと上下させてしまう。

女が持つ色気を全面に押し出した、雄を誘う動き。それは完全にポールダンスそのものであった。

「な、なんでこんな踊りなのよっ?! いやっ……見ないでえっ!」

マルティナが持つ生来の色気。それが存分に発揮される舞踊に、ごろつきは雄欲に駆られるまま凝視。早くも股間の履物に TENT を張り、欲情しているのがあからさまになっていた。

不本意な淫らなポーズを見られ、発情を見せられ、女性として羞恥や嫌悪を感じるマルティナ。しかし……沸き上がる感情は、それだけではなかった。

(だ……ダメ♥ この動きはダメ♥ アレ……思い出しちゃうっ♥)

この動き……ポールダンスだが、マルティナが踊るのは初めてではない。以前強大な魔物に捕らえられて肉便器とされた際……犯されながらこの踊りを調教された経験があるのだ。

——あっへええん♥♥ みんなっ♥♥ 今日も私のドスケベエロダンス見に来たのねっ♥♥
あはっ♥♥ どいつもこいつも♥♥ 私のドスケベっぷりにおちんぼガチガチさせてるうっ♥♥
そっ♥♥ そんなに見られたら♥♥ こっちにも精気が伝わってくるじゃないっ♥♥
あっイクっ♥♥ 見られてイクッ♥♥ ドスケベ狂いのエロまんこっ♥♥
へこへこしながら視姦でイグうううううう♥♥♥
おほっちんぽっ♥♥♥ ちんぽきたあっ♥♥♥ 踊ってるのに異種姦レイプなんてっ♥♥♥
ルール違反よおっ♥♥♥ あっへえっおちんぽでもイクッ♥♥♥
踊りながらおちんぽずぼずぼおおおおっ♥♥♥
おほ——っ♥♥♥ ダンスアクメ最高ほおおおおおおお♥♥♥

敵に精神操作されていたとはいえ、その時の記憶は鮮明に覚えている。

踊り犯される悦び。敵……雄の前で踊ることで状況を再現し、その時に刻み込まれた墮落の快感を思い出してしまう

「ダメなの♥ 思い出すからっ……♥ 見ないで♥ 勃たないでえっ♥」

魔物の視線と勃起、雄臭が、更に記憶を想起させていく。踊り……特に下半身の動きが加速し、股間が時折艶めかしい緩急を挟んで激しく上へ下へと振りたくられる。

魔物の技により強いられているとはいえ、淫らな腰つきはやはり淫魔と化していたあの時のものを完全再現している。それはつまり、淫らに踊りながら雄と交わる動きの再現であり……近付く魔物に、惜しみなく下半身を向けてしまう。自らの指を股間に這わせ、妖しい手付きで牝孔をくぱっと開閉して雄を誘う真似さえしてみせる。

「あぁっ♥ こんなこと……もうしたくない♥ したくないのにつ♥ あ♥」

いよいよ魔物が本能を抑えられなくなったか、マルティナに向けて歩んでくる。大股で一歩二歩と進めば、すぐ触れられる距離まで近づく。意思に反してリズムカルに動く股間に、人間では有り得ないほどのサイズに怒張した雄棒が宛がわれ……

「やめ……っっ♥♥ ああああああああぁっ♥♥」

ずりゅっ♥ ずりゅりゅりゅううっ♥

「ダメっ♥♥ 腰がっ♥♥ 腰があああああああ♥♥」

その瞬間、マルティナは自分から腰をせり出させ、超高速で素股してしまう。過去に教わった、勃起を当てられた際に行う淫らな踊り。それが誘う踊りの効果で誘発されたのだ。

鍛え上げた足腰が繰り出す淫技は素早さ、威力、そして尋常ならざる淫らさを誇り、見てただけで欲情していた魔物ペニスが高速摩擦で更に興奮させられていく。

極上の素股扱きが雄を悦ばせるが……それ以上に、陰唇と牝孔、会陰を擦り付ける刺激によって、マルティナ自身が昂ぶっていく。

「あああああぁっ♥♥ これっ♥♥ これよおおおおおおお♥♥

このドスケベダンスの快感っ♥♥ 思い出しちゃうのおおおおおお♥♥

ダメなのにつ♥♥ 久々の素股っ♥♥ 気持ち良っ♥♥

ちがっ♥♥ 素股ダンスっ♥♥ 気持ち良くなんかあああああぁっ♥♥」

魔物の呻きや摩擦による粘音を掻き消す、牝の喘ぎ。その発情具合は魔物の雄を遥かに凌いでおり、欲求も呪いの強制力に勝っていく。

既にマルティナは呪いのせいでも雄への奉仕でもなく、ただ自身の快樂のための自慰として腰振り運動を続けていた。

ずりゅんっ♥ ずりゅううっ♥

「腰っ♥♥ 止まらないっ♥♥ あぁっ挿れちゃダメ♥♥

挿れたら素股っ♥♥ できなくっ♥♥ あぁっ違うのっ♥♥

ドスケベ素股踊りっ♥♥ 気持ち良いわけじゃないのおっ♥♥」

堪らず願望や快感を言葉にしながら踊りを加速させる。

魔物はその淫らさに、雄欲のまま挿入しようとし……しかし、マルティナの股間はそれを拒むように……その実、素股快樂のために、大きく上下に振っては挿入を回避しつつ淫裂摩擦を貪っていく。

そしてしばらくぶりに牝となったことで、早々に昂ぶりのピークが見えてくる。絶頂が近いとなり、腰つきがますます激しくなり……

「あぁっイク♥♥ ドスケベ時代思い出してイッちゃうっ♥♥

ダメなのにつ♥♥ 腰っ♥♥ 股間っ♥♥ おまんこがあああっ♥♥」

ずりゅりゅっ♥ ずりゅりゅりゅっ♥ ずりゅうんっ♥♥

「っっほおっ♥♥♥ 魔物ちんぽでおまんこごしごししてっ♥♥♥ イクッ♥♥♥

ドスケベ素股っ♥♥♥ イッックううううううううううううううううううう♥♥♥」

とうとう、快感の波が理性と淫欲を呑み込んだ。全力で腰を振り、尻や陰核にまで衝撃が至るストロークと共にマルティナは派手に絶頂。

果てながらも腰は動かしたまま、恥蜜を魔物にかけつつ震える喉で絶頂宣言してしまう。

「はっ……♥♥♥ あはぁあ……♥♥♥ 戦闘中なのに♥♥♥♥ 素股アクメ……なんて……っ♥♥♥」

よりによって格下のザコ敵に封印していた記憶を蘇らされ、同じくザコの魔物に狂ったような淫れっぷりを見せてしまったマルティナ。

恍惚として歓喜の涙を浮かべながらも、敵に油断したこと、女としての情けなさに羞恥を抱いてぐったりと仰向けになる。

とはいえ、これで性欲は発散できた。時間経過により呪いも解け、再び自由を取り戻した。

そのことに安堵するマルティナだが……

「でも、これで、やっと自由に……っ?!♥」

(そうだったわ……魔物おちんぼ♥♥ まだ出してなかった……っ♥♥)

まだ最後の魔物は、その勃起を猛らせたままだ。むしろマルティナの絶頂姿を見て、更に雄欲を漲らせている。

派手な絶頂に少し戸惑っているが……このままでは襲われるのも時間の問題だ。マルティナは魔物を避けるため、体勢を立て直すことを試みる。

「っ!」

(脚を広げたままなんてダメよ♥ こんな格好、すぐ犯されてしまうわっ♥ ……っ?!♥

か、身体が……♥ 動かない……力が、入らない……っ♥)

切り返さなければ……そう思い、仰向けのままポールを掴んで身体起こそうとするが……腰が抜けたように動かない。更に淫欲絶頂での脱力で、身体を横に転がすといったことすらできず、ただ隙だらけの姿勢でポールを掴むことしかできないでいる。

「な、どうしてっ♥ そんな……疚しいのも、発散できたのにつ♥

あんなマネさせて……まだ言うことを聞かないのっ?!♥」

自由の身になった……はずだった。確かに呪いは解け、精神も牝欲に囚われてはいない。

だが、熟し切ったマルティナの肉体……その芯には、まだ快楽が残っている。

いかに精神を解放しても、肉体が記憶快楽に引き摺られ、淫らな体勢のままの姦淫を望んで動けなくなっているのだ。

「お、お願い♥ 動いて♥ このままじゃ、また……ひいつ♥」

時間をかければ、肉体の熱も鎮められただろうが……そんな猶予など許さず、満足できなかった雄魔が手を伸ばす。

腰を掴み、再び剛直を宛がってくる。今度は確実に挿れられるようにか、亀頭が力強く押し当てられる。スパッツを引き裂かんばかりに剛直がめり込み……

「ダメ♥♥ 挿れないでっ♥♥ 素股とかならいくらでもするから♥♥

お願いっそんな♥♥ 極太の魔物ちんぽだけはあっ♥♥」

ぐぼおっ♥♥

「っほおっおっおっおっおっおっおっおっおっおっおっ♥♥♥

ちんぽっ♥♥♥ 魔物おちんぽおっおっおっおっおっおっおっおっおっおっおっ♥♥♥」

またも久しい快感……それも素股とは比にならない被虐快楽に、マルティナは雄棒を讃える言葉と共に絶頂する。

「そんなっ♥♥ おちんぽ♥♥ 魔物おちんぽが入ってるうっ♥♥

衣服を突き破ってくるなんて♥♥ なんて力強いおちんぽ……あ♥♥」

痛みもそこそこに、心のどこかでも待ち望んでいた肉棒の威力に打ち震える。挿入絶頂の余韻に浸るのも束の間、また眼を見開かされる。魔物のピストン……マルティナの腰を掴んでの肉突きが始まったのだ。

ずぼおっ♥

「っへええっ♥♥♥ 奥っ♥♥ すごっ……」

ずぼっ♥ ぐぼっ♥ どずうんっ♥

「スゴいっ♥♥ スゴいいいっ♥♥ 奥まで届いてっ♥♥ 魔物ちんぽに♥♥ 踊らされるうっ♥♥♥」

筋骨隆々の容姿に見合う激しいピストンが、マルティナの身体を大きく揺さぶる。それでいて、やはり素股運動に興奮していたのか先程の踊りとほぼ同じ規模の動作であり、マルティナも魔物に合わせて踊りで腰を使っているようになってしまう。

実際に過去にやっていたことを再現され、鎮めたはずの舞踊淫行の快楽と願望をぶり返させられる。

ぐぼっ♥ ずばんっ♥ ぱんっ♥ ずっぼお♥

「激しっ♥♥ それっ♥♥ それはダメなのっ♥♥ 身体がっ♥♥ 思い出し♥♥ あああああああああ♥♥♥」

そこでまたも絶頂がやってくる。思い出したくないマルティナを否定するように快楽の波が覆い被さり続け、理性が逃げ場を失っていく。

ここで流されては、このまま魔物の陵辱を最後まで完遂され……更にマルティナもあの頃の淫魔に戻ってしまうかもしれない。今にも腰を自ら振りたいそうになりながらもポールを握り締め、快楽から抜け出そうと試みる。

「ダメっ♥♥♥ ドスケベダンスっ♥♥♥ 思い出すっ♥♥♥ 思い出すうおっおっおっおっおっ♥♥♥」

(流されそうっ♥♥ やっぱり魔物のおちんぽスゴいっ♥♥ ドスケベダンスでハードファックしたいっ♥♥

でも……耐えなきゃ……♥♥ ちんぽなんか……♥♥ 快楽なんか負けてはダメっ♥♥

過去の呪縛なんか♥♥ ドスケベダンスファックの快楽なんか……♥♥)

——負けたりしないっ♥♥

ごづんっ♥♥

「あゝ♥♥♥ これ♥♥♥ もう♥♥♥」

しかし……そこで子宮が潰れる勢いで強打され、決意が一瞬にして崩れ去る。
強気な眼がぐるんと裏返し、マルティナの中の何かがプツンと音を立ててはち切れた。

「アヘッ負けるっ♥♥♥ ドスケベ快樂っ♥♥♥ 逃げられないiiiiiiiiii♥♥♥

奥つまたっ♥♥♥ おほおおっっ♥♥♥ もうダメ♥♥♥ アへるっ♥♥♥

ドスケベダンスファックっ♥♥♥ んぎもちいひiiiiiiiiiiっ♥♥♥」

完全にスイッチが入り、女闘士は身も心も牝魔と化す。

ポールを握り直し、再び淫らな踊りを再開。惜しげもなく淫語を使い、魔物の巨根を押し返す勢いで腰をぶつけ返していく。

「ちんぽっ♥♥♥ ちんぽっ♥♥♥ ちんぽおおおおおおおお♥♥♥

もう我慢できないのおおおおお♥♥♥」

ばんばんばんばんばんばんばんっ♥ ごづんっ♥ ずごりゅんっ♥

「どうっ♥♥♥ 私のドスケベダンスっ♥♥♥ 最高でしょおっ♥♥♥ あなたのちんぽも素敵よおっ♥♥♥

もっとお♥♥♥ 腰っ♥♥♥ 壊れるくらいぶつけてえっ♥♥♥」

淫欲を掻き立てるために注挿音を響かせ、舌舐めずりも使って魔物を更に煽っていく。

「イイっ♥♥♥ おちんぽイイわぁっ♥♥♥ 人間じゃマネできないこの精力うっ♥♥♥

ドスケベダンスでハメるのイイiiiiiiiiiiっ♥♥♥」

ばんばんばんばんばんばんばんっ♥ ごづんっ♥ ずごりゅんっ♥

「魔物ちんぽっ♥♥♥ 魔物ちんぽイイのおっ♥♥♥ こんな忘れられるわけないっ♥♥♥

ホントはずっとコレが欲しかったのおっ♥♥♥ いくらでも腰振るっ♥♥♥ 無様にアへって踊るからぁっ♥♥♥

もっど♥♥♥ もっどハメでえええええ♥♥♥」

体験版はここまでです。続きは製品版で！